

社会福祉学科

社会福祉コース

1 年生

(実技)		科目名:手話		講師:中村かよ子	
科目概要・目標	音声以外にも方法があり、伝えられることを学ぶ。 「大声よりも身ぶりで」目を合わせ、表情豊かにゆっくりと話しかける。				
教科書		近藤禎子 『身ぶり手ぶりで楽楽コミュニケーション 介護に役立つシニアサイン』			
期末試験		1. 活用する時に気を付けること 2. 受講して気付けたこと 3. サインを読み取る			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション シニアサイン→ユニバーサルサインに			
第2回		幅広いコミュニケーション方法			
第3回		(復)コミ方法 指文字で名前を			
第4回		慣れよう①「アイコンタクト」「ミラーリング」			
第5回		効果「サイン」			
第6回		動作 ことばに合った動き			
第7回		感情 ことばに合う表情			
第8回		感覚 ことばと共に 「メラビアンの法則」			
第9回		慣れよう② 「マカトン法」ことばと同時にサイン			
第10回		慣れよう③ 「好きなこと」伝えあう			
第11回		慣れよう④ 「伝わる・伝える」サインの工夫			
第12回		「サイン」で話してみる① 短文を使って			
第13回		「サイン」で話してみる② 短文を使って			
第14回		「サイン」で話してみる③ 短文を使って			
第15回		まとめ どんな方法？気をつけることは？			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業への取り組み		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:社会福祉原論		講師: 中 篤 洋	
科目概要・目標	社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、社会福祉の原理や理論、福祉政策、福祉サービスの供給体制などについて、概念や理念、歴史的展開などを踏まえて理解する。さらに、社会問題と社会構造の関係や国際比較の視点などを通して、日本の社会福祉の特性や今後のあり方についても考察を深める。				
教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】4 社会福祉の原理と政策』中央法規。				
提出課題	レポート設題1	福祉国家の思想と原理について述べよ。			
	レポート設題2	戦後の社会福祉の展開と今日の課題について述べよ。			
	学修のポイント1	慈善組織協会(COS)について			
	学修のポイント2	戦後における社会福祉理論の歴史的展開について			
	学修のポイント3	福祉という概念について			
	学修のポイント4	福祉政策の構成要素について			
	学修のポイント5	地域共生社会の実現について			
	学修のポイント6	福祉供給部門について			
期末試験	後日発表				
回数	授業内容				
第1回	学修ポイント③福祉という概念について				
第2回	福祉国家の思想と原理①				
第3回	福祉国家の思想と原理②				
第4回	福祉国家の思想と原理③				
第5回	学修ポイント①慈善組織協会(COS)について				
第6回	学修ポイント②戦後における社会福祉理論の歴史的展開について				
第7回	戦後の社会福祉の展開と今日の課題①				
第8回	戦後の社会福祉の展開と今日の課題②				
第9回	学修ポイント④福祉政策の構成要素について				
第10回	学修ポイント⑤地域共生社会の実現について				
第11回	学修ポイント⑥福祉供給部門について				
第12回	戦前の社会福祉の歩み①				
第13回	戦前の社会福祉の歩み②				
第14回	期末試験対策				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学習のポイント2本、下書きレポート・清書レポート)の提出状況		
		20点	授業態度(私語、居眠り、スマホ等厳禁)		
備考	遅刻後に教室へ入室する際は、出席簿への記入が必要ですので、担当教員に必ず遅刻した旨を教えてください。積極的に頑張りましょう。				

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習 I	講師: 戎 弘志
科目概要・目標	学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習 I は「ソーシャルワークの基礎」という位置づけとなり、個人、集団、地域といった、いわゆるソーシャルワーカーが支援の対象とするクライアントシステムについて基礎的な理解を図るとともに、働きかけの方法としての基本的 なコミュニケーション、システムの特徴について学習する。下記の目標を達成することが期待される。 1) 自己覚知への取り組みを通じて自分自身、集団の中での自身、また地域生活における自身について明瞭な説明ができる。 2) コミュニケーションの構造を理解し、基本的なコミュニケーションを実施することができる。 3) 基本的な面接技術について説明ができる。 4) ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 5) ソーシャルワーク・プロセスについて説明することができる。 6) ソーシャルワーク実践に必要な記録についてその特性を説明することができる。 7) 集団(グループ)の特質、グループダイナミクス、グループワークのプロセスについて説明することができる。 8) 地域(コミュニティ)に関する理解と、その定義・役割、機能についてプレゼンテーションを実施することができる。		
教科書		「はじめてのソーシャルワーク演習」 ミネルヴァ書房	
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーク実践の対象(ケース、グループ、コミュニティ)とその特徴、支援者に求められる技術について述べよ。 (ポイント) ケース、グループ、コミュニティそれぞれの特性を整理したうえで、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術を前提とする必要な技術についてまとめる。	
	学修のポイント1	基本的な面接技術について	
	学修のポイント2	ソーシャルワークの展開過程と専門的視点	
	学修のポイント3	ソーシャルワークの記録について	
	学修のポイント4	グループワークの実践について	
	学修のポイント5	生活の基盤としてのコミュニティに関する理解について	
	学修のポイント6	プレゼンテーションについての理解について	
期末試験		講義の中で発表	
回数		授業内容	
第1回		ガイダンス、「ソーシャルワーク演習 I のねらいと概念」	
第2回		自己覚知(個人)、基本的コミュニケーションの方法、面接技法	
第3回		レポート1対策①「ケースワークのプロセスと技術」	
第4回		ソーシャルワークの展開過程と専門的視点 P18～21	
第5回		レポート1対策②「グループワークのプロセスと技術」	
第6回		レポート1対策③「コミュニティワークのプロセスと技術」	
第7回		基本的な面接技術について P14～17、P72～79	
第8回		ケース、グループ、コミュニティワークの特徴と技術	
第9回		ソーシャルワークの記録について P22～25	
第10回		グループワークの実践について P26～37	
第11回		生活の基盤としてのコミュニティに関する理解について P42～53	
第12回		プレゼンテーションの方法	
第13回		プレゼンテーションについての理解について P54～57	
第14回		期末試験/科目終了試験対策	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点	
	授業内評価	30点	レポート、授業課題及び授業態度
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁。	

(講義)		科目名:地域コミュニケーションワーク		講師:山田 哲史
科目概要・目標	本科目は、問題発見能力、問題解決能力を実践を通して深めていくことを目的としている。学生ひと一人が目的意識を持ち、互いに支え合いながら課題解決に取り組むことで学生間の意思疎通を図り、コミュニケーション能力を高めることを期待する。			
教科書	適宜配布			
期末試験	論述形式。持込許可物件は授業時に配付の資料、自筆のノート。			
回数	授業内容			
第1回	出店準備作業(1)			
第2回	出店準備作業(2)			
第3回	出店準備作業(3)			
第4回	出店準備作業(4)			
第5回	期末試験実施			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	40点	設題:「地域コミュニケーションワーク」においてあなたがh学び得たことをまとめなさい。(1000～1200字)	
	授業内評価	15点	評価ポイント:授業内課題・発表内容	
		15点	評価ポイント:授業態度・学習意欲・積極性・忘れ物有無	
備考		本授業は、ワークが中心となる為、進行状況によってはシラバスに変更が生じる可能性があります。より良いワークのためには受講生同士の協力が不可欠です。より良い学びとなるように自ら学ぼうとする姿勢を持って授業に臨んでください。授業形態によっては、授業内容を変更する可能性もあります。		

(講義)		科目名:専門研究Ⅱ(人間発達学)		講師:花木元司	
科目概要・目標	いろいろな年代や多くの人とかかわることを職業とする場合、人間の発達について学ぶことは必要不可欠の要因である。基本的知識である各発達段階の特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな理論について学んでいく。さらに、人が生きていくうえでさまざまな困難を体験するが、その心理的な背景と対応の方法について考察を進めていく。これまでの研究によって得られた知見をもとに現代社会における「発達」について考える。				
参考文献		【参考資料】 ①開一夫・斎藤慈子「ベーシック発達心理学」東京大学出版会 ②有斐閣アルマ小松考至「発達心理学の視点」サイエンス社 ③無藤隆・岡本祐子・大坪治彦「よくわかる発達心理学」ミネルバ書房			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		講義概要 この講義で学んでほしいこと、成長と発達			
第2回		発達の見方と主な発達理論(Erikson, Piaget)			
第3回		発達の見方と主な発達理論(比較行動学、生涯発達理論)・個体と環境			
第4回		出生前発達と出生(胎内で聞こえる母親の声、新生児期の適応行動)			
第5回		乳児期の世界(大切なスキンシップ・反射・微細運動)			
第6回		乳児期の世界(人見知り・移行対象・認知の発達)			
第7回		幼児期前期の世界(自分に目覚める・言語、情緒の発達)			
第8回		幼児期後期の心理と発達(ごっこ遊び・認知の発達・事故予防)			
第9回		幼児期後期の心理と発達(群れ遊び・情緒、社会性の発達)			
第10回		児童期の心理と発達(具体的操作・メタ認知)			
第11回		児童期の心理と発達(友達関係の特徴・自己制御・道徳性)			
第12回		青年期の心理と発達(価値観の特徴、男女の違い)			
第13回		成人期の心理発達(情緒と社会的成熟、認知発達、ライフスタイルの選択)			
第14回		成人期中期・後期の特徴(柔軟な対応能力、同一性と自己概念の再構築)			
第15回		老後の知恵			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする		
	期末試験	30点	科学的に内容を理解できたか		
	授業内評価	25点	授業態度(内容理解の深化と科学的根拠に基づいた発言)		
		15点	学習資料の準備		
備考		この講義を受け身で受講するのではなく、関係のある文献などへの関心も深め、科学的根拠に基づいた思考ができるようになってほしい。			

(講義)		科目名:死生学		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標	今日、日本では脳死、臓器移植、尊厳死などに代表される生命の在り方について社会的な関心が高まっている。本科目では、これらの事例に対する思案を深めるなかで、一般的な死生学の思想や実践とは何か考察し、その上で死、苦、老の問題や生命倫理(bioethics)における倫理的ジレンマ(ethical dilemma)、意思決定(decision-making)、生命工学(biotechnology)などの諸側面について言及する。前例のない問題について取り上げ、新しい科学技術や知識等について人類社会における意義も併せて考える。また、死の背後にある宗教観、倫理観についても諸外国の例を紹介しながら考察を深める。				
教科書		(参考文献) 星野一正『医療の倫理』岩波書店。			
提出課題	レポート設題1	「生命」の自己決定に関する事柄について意見を述べよ。			
	学修のポイント1	脳死と臓器移植について			
	学修のポイント2	安楽死について			
	学修のポイント3	インフォームド・コンセントについて			
	学修のポイント4	ホスピスの役割について			
	学修のポイント5	リビング・ウィルについて			
	学修のポイント6	自死(殺)について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		導入			
第2回		尊厳ある死とは			
第3回		脳死とは			
第4回		献体と臓器提供とは			
第5回		インフォームド・コンセントとは			
第6回		安楽死とは			
第7回		ホスピスとは			
第8回		レポート作成日			
第9回		これまでの振り返り学習			
第10回		自死(殺)とは			
第11回		告知とは			
第12回		QOL/ QODとは			
第13回		二人称としての死とは			
第14回		三人称としての死とは			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、レポート下書き×各5点)※締め切り日提出遅れは減点		
		5点	振り返り学習でのグループワーク		
15点		授業態度(意欲、態度、グループワークの様子、コメント記入など総合的に)			
備考					

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅰ		講師: 室山 俊浩	
科目概要・目標	本科目では、「教養」を身につけるための一環として、①国語問題(間違いやすい漢字や熟語、文学史、読解など)、②計算問題(数学、物理、化学、数的推理など)、③英語問題(間違いやすい単語や熟語、ことわざ、長文読解、英作文など)、④資料問題(グラフや表からの情報の読み取りなど)を解いたり、⑤小論文(自己紹介文、報告書、感想文など)を作成したりしながら、基礎学力を身につける。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解し、応用力を高める。さらに、「教養」とは何かを再確認し、それを身につけることの意義についても考察する。				
教科書		適宜プリントを配布する。			
提出課題	レポート設題1	「教養」を身につけることの意義について述べよ。			
	レポート設題2				
	学修のポイント1	国語問題を解くための技法や留意点について			
	学修のポイント2	計算問題を解くための技法や留意点について			
	学修のポイント3	英語問題を解くための技法や留意点について			
	学修のポイント4	資料問題を解くための技法や留意点について			
	学修のポイント5	小論文を作成するための技法や留意点について			
	学修のポイント6	「教養」と「社会人基礎力」との関係について			
期末試験		授業で扱った問題			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/設題 レポート対策 「教養」とはなにか1			
第2回		設題 レポート対策 「教養」とはなにか2			
第3回		設題 レポート対策 「教養」を身につける意味は1			
第4回		設題 レポート対策 「教養」を身につける意味は2			
第5回		問題演習			
第6回		学修のポイント2 「計算問題を解くための技法や留意点について」			
第7回		問題演習			
第8回		学修のポイント4 「資料問題を解くための技法や留意点について」			
第9回		学修のポイント6 「「教養」と「社会人基礎力」との関係について」			
第10回		学修のポイント1 「国語問題を解くための技法や留意点について」			
第11回		学修のポイント3 「英語問題を解くための技法や留意点について」			
第12回		学修のポイント5 「小論文を作成するための技法や留意点について」			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で説明した問題から出題 持ち込み不可		
	授業内評価	30点	授業内態度など		
備考		提出物の締切は厳守すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。 勝手な私語、無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:人体の構造と機能及び疾病		講師: 戎 弘志	
科目概要・目標	この講義は、医学の総合社会科学としての側面についても触れ、生活の質(QOL)を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。 具体的には、 ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。 ●国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座【共通科目】1 医学概論』中央法規			
提出課題	レポート設題1	認知症について述べよ。 ＜ポイント＞ 単なる物忘れとの違いについて触れながら認知症の定義について説明し、認知症の原因と症状、認知症と間違われやすい病態とその違い、治療(薬物療法および非薬物療法)について論じること。			
	学修のポイント1	生活習慣病と未病について			
	学修のポイント2	悪性腫瘍について			
	学修のポイント3	骨・関節疾患について			
	学修のポイント4	感染症について			
	学修のポイント5	先天性障害について			
	学修のポイント6	老化に伴う心身機能の変化について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		人の成長・発達と老化 水分と脱水			
第2回		血液成分 循環器			
第3回		腎臓と呼吸器			
第4回		消化器と神経 感染症			
第5回		支持運動器官と感覚器			
第6回		悪性腫瘍について			
第7回		脳血管疾患と心疾患			
第8回		生活習慣病			
第9回		認知症 高次脳機能障害 精神障害			
第10回		呼吸器疾患と消化器疾患			
第11回		血液疾患 及び 腎臓疾患と泌尿器疾患			
第12回		骨・関節疾患 感覚器疾患 神経疾患 先天性疾患			
第13回		身体障害、知的障害、発達障害			
第14回		リハビリテーション 国際生活機能分類の基本的考え方			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み:不可 (記述及び論述)		
	授業内評価	30点	設題は 締切までに作成したか、十分考察されているかで判断する。		
			学習意欲、提出期限、授業中の態度等、総合的に評価する。		
備考		〈参考文献〉新・社会福祉士養成講座13 (高齢者に対する支援と介護保険制度) 新・社会福祉士養成講座14 (障害者に対する支援と総合支援法) 遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用厳禁			

(講義)		科目名:高齢者福祉論		講師: 原田 亘	
科目概要・目標	日本社会は、少子高齢化に伴う人口減少と福祉・介護人材の確保が課題となっており、少子高齢社会の動向を的確に把握し、問題の枠組みを理解すると共に、ニーズに基づく総合的・計画的な対応を明らかにする。 本授業では、第1に、人口構造と世帯構成をふまえ、高齢者の身体的・精神的・経済的状态など高齢者を取り巻く状況について理解を深める。第2に、高齢者福祉の発展過程として老人福祉法、老人保健法～高齢者医療確保法、介護保険法、高齢者虐待防止法等の経過について理解する。第3に、支援が必要な虚弱高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点について検討する。第4に、介護保険法に規定されている介護に関連する各種サービスや介護予防、ケアマネジメント、認知症ケア、地域包括支援センターの諸事項について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域社会などで生活を継続するために、どのようなサービスや政策が必要かをデータ分析・地域調査をふまえ、より良い高齢社会を展望する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座【専門科目】2 高齢者福祉』中央法規。		
提出課題	レポート設題1	介護保険制度の基本的枠組みについて体系的に説明しなさい。			
	学修のポイント1	老人福祉法の意義、目的など主要事項について			
	学修のポイント2	老人保健法から現在の高齢者医療確保法への移行について			
	学修のポイント3	地域包括支援センター			
	学修のポイント4	介護人材の確保について			
	学修のポイント5	認知症ケアのすすめ方について			
	学修のポイント6	高齢者虐待をめぐる諸問題と対応について			
期末試験		詳細については講義内で説明します			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション／高齢者福祉の理念			
第2回		高齢者と少子高齢社会			
第3回		高齢者の生活実態と社会環境			
第4回		介護保険制度の概要①			
第5回		介護保険制度の概要②			
第6回		介護保険サービスの体系①			
第7回		介護保険サービスの体系②／レポート作成			
第8回		高齢者に関する関連諸制度①			
第9回		高齢者に関する関連諸制度②			
第10回		【演習1】 高齢者の気持ちに寄り添う			
第11回		高齢者と家族等の関係機関と専門職の役割			
第12回		高齢者虐待をめぐる諸問題と対応について			
第13回		【演習2】 高齢者虐待のケース対応			
第14回		戦後の高齢者福祉制度の変化について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	持込可		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。		
		30点	授業態度。授業は積極的に参加すること。		
備考		高齢者を取り巻く制度と具体的な支援方法の関係について、常に考えながら受講していただくことを望みます。			

(講義)		科目名:健康・スポーツ		講師: 春田典三	
科目概要・目標	運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。				
	教科書		大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院		
提出課題	レポート設題1	現代日本の人々の生活習慣、運動、健康との関連性について述べよ。 ＜ポイント＞ 生活習慣病がなぜ問題となるのかを明確にする 生活習慣病の予防・改善に運動がどのように関わるかを明確にする 生活習慣病にならないためにどのような健康習慣を行うかを考える			
	学修のポイント1	健康の定義とヘルスプロモーションについて			
	学修のポイント2	生活習慣と健康の関連性について			
	学修のポイント3	トレーニングの原理・原則と効果について			
	学修のポイント4	有酸素運動と無酸素運動の方法や効果について			
	学修のポイント5	運動と心拍数及び血圧の関係性について			
	学修のポイント6	健康のための食事内容やダイエットの方法について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/生活習慣病		(座学)	
第2回		生活習慣病～予防と対策		(座学)	
第3回		バレーボール・基本～		(実技)	
第4回		バレーボール・応用(ゲーム)		(実技)	
第5回		ストレスと健康		(座学)	
第6回		レクリエーション(実技) 理学・作業名古屋専門学校 3F			
第7回		レジスタンストレーニング		(座学)	
第8回		バスケットボール・基本～		(実技)	
第9回		バスケットボール・応用(ゲーム)		(実技)	
第10回		有酸素運動と無酸素運動の方法や効果について			
第11回		筋トレ～ウォーキング(実技)理学・作業名古屋専門学校3F		(座学)	
第12回		レクリエーション(実技) 理学・作業名古屋専門学校 3F			
第13回		スロトレ			
第14回		レクリエーション(実技) 理学・作業名古屋専門学校 3F			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	15点	レポート	※提出期限に提出できない場合は減点	
		15点	学修ポイント	※提出期限に提出できない場合は減点	
		20点	実技演習	※服装等の準備、実技への取り組みを評価	
備考					

(講義)		科目名:フィールドワークⅡ		講師:株式会社musbun 仁井田 和也	
科目概要・目標	この授業では、社会福祉学を学ぶ入り口として「福祉とは何か」をイメージできるようになることを目指します。あわせて、資格取得のための実習に臨むうえで必要となる心構えについても学びます。				
	福祉が多様な考え方や仕組みから成り立ち、さまざまな専門職によって支えられていることを学びます。授業では、自ら情報を収集し、グループワークを通じて多角的に整理・考察することを大切にします。				
	さらに、フィールドワークを通じて実際の現場に触れ、講義で学んだ知識に具体的なイメージを重ねていくことで、より実感を伴った理解を深めることを目指します。				
教科書		配布資料を基に学習を進める			
期末試験		校外学習において 学んだことと感想を述べよ。			
回数		授業内容			
第1回		校外学習①			
第2回		校外学習②			
第3回		校外学習③			
第4回		学園祭			
第5回		学園祭			
第6回		自己紹介/ワークショップ			
第7回		ゲスト講師			
第8回		ゲスト講師			
第9回		校外学習①@スマイリング			
第10回		校外学習②@スマイリング			
第11回		校外学習③@スマイリング			
第12回		ゲスト講師			
第13回		ゲスト講師			
第14回		ゲスト講師			
第15回		実習に向けての心構え講習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加・発言、発表、提出物の内容、提出期限		
備考		積極的な参加や発言を期待します。			

(講義)		科目名:法学Ⅰ(憲法)/法学(憲法)		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	将来の目標がいかなるものであっても、社会に役立つ人材となるためには、諸法令を理解し、それらを用いるための基礎的な能力を身につけることが必要である。すなわち、諸法令の根源にある憲法、行政法、民法などについて、一般的な知識を習得しなければならない。本科目では諸法令の理解を容易にするために、その基盤となっている法学概論(法 の概念、法の効力、法の運用・解釈、諸法令の内容)を勉強し、その後で、国家の政治体制と国民の基本的人権を定めている最高法規としての憲法の学修へと進んでいく。				
教科書		三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院			
提出課題	レポート設題1	日本国憲法に定める自由権、とりわけ精神的自由権について詳述せよ。 自由権にはどのようなものがあるか。精神的自由権の内容について詳述せよ。			
	学修のポイント1	日本国憲法の法の下での平等について			
	学修のポイント2	日本国憲法の基本原理について			
	学修のポイント3	日本国憲法が規定する国会の機能について			
	学修のポイント4	日本国憲法における生存権と教育を受ける権利について			
	学修のポイント5	日本国憲法が規定する議院内閣制について			
	学修のポイント6	日本国憲法における司法権独立について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/憲法とはなにか			
第2回		日本国憲法の法の下での平等について①			
第3回		日本国憲法の法の下での平等について②			
第4回		日本国憲法の基本原理について			
第5回		日本国憲法の自由権について①(精神的自由権)			
第6回		日本国憲法の自由権について②(精神的自由権)			
第7回		日本国憲法の自由権について③(精神的自由権)			
第8回		日本国憲法の自由権について(経済的自由権・人身の自由)			
第9回		日本国憲法が規定する国会の機能について①			
第10回		日本国憲法が規定する国会の機能について②			
第11回		日本国憲法における生存権と教育を受ける権利について			
第12回		日本国憲法が規定する議院内閣制について			
第13回		日本国憲法における司法権独立について			
第14回		日本国憲法における平和主義について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度(授業態度や質疑応答など、積極的に授業を受けているか)、提出物の期限		
備考		授業中の居眠り、私語(おしゃべり)、スマートフォン等の無断使用、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

社会福祉学科

社会福祉コース

2年生

(講義)		科目名:地域福祉論		講師: 中寫洋	
科目概要・目標	本科目では地域福祉の基本的な考え方をはじめ、地域福祉に関わる組織・団体や専門職、住民の主体形成の概念、福祉行財政の実施体制や福祉計画の意義、包括的支援体制の考え方などについて学ぶ。現代の地域福祉を取り巻く問題として社会的孤立や8050問題、生活困窮者支援、災害時の支援などについても取り扱う。本科目は社会福祉士および精神保健福祉士受験資格の指定科目である「地域福祉と包括的支援体制」に対応するものである。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規。			
提出課題	レポート設題1	地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを1つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。			
	レポート設題2	災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。			
	学修のポイント1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について			
	学修のポイント2	包括的支援体制(包括的な相談支援体制)とその具体例について			
	学修のポイント3	地域福祉の推進主体について			
	学修のポイント4	地域を基盤としたソーシャルワークの展開について			
	学修のポイント5	市町村地域福祉計画の概要とPDS サイクルについて			
	学修のポイント6	福祉行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について			
期末試験		後日連絡する。			
回数		授業内容			
第1回		地域福祉の発展過程と新しい地域福祉と生活困窮者自立支援制度			
第2回		地域福祉理論の発展と福祉圏域とコミュニティワークの展開			
第3回		地域福祉の推進と福祉教育の歩み・内容			
第4回		行政組織と民間組織の役割と住民の組織化			
第5回		コミュニティソーシャルワークと専門職の役割			
第6回		住民の参加・方法と社会福祉協議会の機能			
第7回		日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方			
第8回		ソーシャルサポートネットワークと在宅福祉サービスの基盤整備			
第9回		災害支援と地域福祉			
第10回		地域における社会資源の活用・調整・開発			
第11回		地域における福祉ニーズの把握方法と実際			
第12回		地域トータルケアシステムの構築と実際			
第13回		地域における福祉サービスの評価方法と実際			
第14回		まとめ(テスト対策)			
第15回		期末試験(持ち込み可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日連絡する。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント2本、下書きレポート・清書レポート)の提出状況		
		30点	授業態度(私語、居眠り、スマホ等厳禁)		
備考					

(講義)		科目名:保健医療		講師: 中寫洋	
科目概要・目標	疾病構造の変化や人口の高齢化、医療施設から在宅医療への流れが進んでいる現在、保健医療に係る政策や制度はより現状に即したものに変わっていく必要がある。この科目では医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療に係る各専門職の役割や多職種連携についての基礎的な理解を深めるとともに、保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。インフォームド・コンセントやアドバンス・ケア・プランニング(ACP)、尊厳死や終末期医療の問題など保健医療に係る倫理的問題についても学ぶ。				
	教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 『最新社会福祉士養成講座【専門科目】5 保健医療と福祉』中央法規		
提出課題	レポート設題1	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、医療と介護の連携について述べよ。			
	学修のポイント1	医療ソーシャルワーカーの業務の内容について			
	学修のポイント2	患者の権利とインフォームド・コンセントの意義について			
	学修のポイント3	終末期医療とアドバンスケアプランニング(ACP)について			
	学修のポイント4	保健医療サービスの提供体制について			
	学修のポイント5	医師、保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーの役割と連携について			
	学修のポイント6	高額療養費制度について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		保健医療サービスの構成要素と戦後の展開過程			
第2回		医療ソーシャルワーカーの歴史と枠組み			
第3回		医療ソーシャルワーカーの業務(ミクロ・メゾ・マクロ)			
第4回		保健医療サービスの今日的課題と医療連携・チーム医療の推進			
第5回		医療法・保健医療政策による医療施設、診療報酬について			
第6回		保健医療サービスにおける専門職の連携と実践			
第7回		地域包括ケアシステムと在宅医療			
第8回		チームケア実現のための制度・機関・団体			
第9回		診療報酬と介護保険法			
第10回		保健医療サービスの専門職の役割			
第11回		保健医療サービスの提供と経済的保障、高額療養費制度			
第12回		保健医療サービスにおける地域の社会資源の活用			
第13回		地域ケアネットワークの実践と課題			
第14回		まとめ(テスト対策)			
第15回		期末試験(持ち込み可)			
第16回		科目終了試験(持ち込み不可)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日連絡する。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント2本、下書きレポート・清書レポート)の提出状況		
		30点	授業態度(私語、居眠り、スマホ等厳禁)		
備考					

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅲ		講師:伊里みゆき	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 ソーシャルワーク演習Ⅲは「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰ及びソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を、事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、元社会福祉協議会で社会福祉士として地域福祉に従事する講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房。		
提出課題	レポート設題 1		総合的・包括的な支援の意義と方法について述べよ。		
	学修のポイント1		個人に対するソーシャルワーク実践について		
	学修のポイント2		集団に対するソーシャルワーク実践について		
	学修のポイント3		地域に対するソーシャルワーク実践について		
	学修のポイント4		虐待が疑われるケースへの支援について		
	学修のポイント5		災害被災者への支援について		
	学修のポイント6		複合的なニーズを有する人々への支援について		
期末試験		授業の中で指定			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		個人に対するソーシャルワーク実践について			
第3回		個人に対するソーシャルワーク実践について			
第4回		集団に対するソーシャルワーク実践について			
第5回		集団に対するソーシャルワーク実践について			
第6回		地域に対するソーシャルワーク実践について			
第7回		地域に対するソーシャルワーク実践について			
第8回		総合的・包括的な支援の意義と方法			
第9回		総合的・包括的な支援の意義と方法			
第10回		総合的・包括的な支援の意義と方法			
第11回		総合的・包括的な支援の意義と方法			
第12回		虐待が疑われるケースへの支援について			
第13回		事例を用いたソーシャルワーク実践			
第14回		まとめ 期末試験・科目終了試験について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験		30点		
	授業内評価		20点	提出物(期限後提出は減点)	
			20点	授業態度(教員の指示に従わない、他のレポートを作成する、居眠り、私語、スマホなどは減点します 注意をしても改善できない場合、欠席とします)	
備考		授業中、積極的な発言をすること			

2025年度 後期

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅱ		講師:室山俊浩		
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。					
教科書		適宜プリントを使用する。				
期末試験		授業で扱った問題から出題。				
回数		授業内容				
第1回		問題演習				
第2回		問題演習				
第3回		問題演習				
第4回		問題演習				
第5回		問題演習				
第6回		問題演習				
第7回		問題演習				
第8回		問題演習				
第9回		問題演習				
第10回		問題演習				
第11回		学園祭読み替え(休講)				
第12回		学園祭読み替え(休講)				
第13回		問題演習				
第14回		問題演習				
第15回		問題演習				
第16回		期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。			
	授業内評価	30点	授業内態度			
備考						

2025年度 後期

(講義)		科目名:人権教育		講師: 山田哲史	
科目概要・目標		人権尊重は21世紀の世界の課題である。わが国においても人権尊重の精神の涵養を目的とする多くの教育・啓発活動が行われている。本科目では、諸種の人権課題に対するわが国の取り組みについて理解を深め、それらの課題と人権教育との関連について考察を深める。また、日常の学校教育における人権教育のあり方についても学修する。			
教科書		必要に応じて資料を配布します。			
提出課題	レポート設題 1	人権教育の現状と課題について考察するとともに、学校における人権教育のあり方についてあなたの考えを具体的に述べよ。			
	学習のポイント1	「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について			
	学習のポイント2	児童の権利に関する条約について			
	学習のポイント3	学校教育における人権教育について			
	学習のポイント4	教科等の学習における人権教育について			
	学習のポイント5	わが国の人権問題の現状と課題について			
	学習のポイント6	わが国の人権問題(課題)の解決について			
期末試験		(授業時に指示します。)			
回数		授業内容			
第1回		人権問題の現状と課題について(1、内容確認)			
第2回		人権問題の現状と課題について(2、まとめ)			
第3回		学校教育における人権教育について(1、内容確認)			
第4回		学校教育における人権教育について(2、まとめ)			
第5回		人権教育のあり方について(1、内容確認)			
第6回		人権教育のあり方について(2、まとめ)			
第7回		「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について(1、内容確認)			
第8回		「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について(2、まとめ)			
第9回		児童の人権擁護と行使について(1、内容確認)			
第10回		児童の人権教育と行使について(2、まとめ)			
第11回		教科等の学習における人権教育について(1、内容確認)			
第12回		教科等の学習における人権教育について(2、まとめ)			
第13回		わが国の人権問題(課題)の解決について(1、内容確認)			
第14回		わが国の人権問題(課題)の解決について(2、まとめ)			
第15回		期末試験実施			
第16回		科目終了試験実施			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント		
	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁		
		20点	課題提出状況		
備考		教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	社会福祉士の職域、福祉行政等における専門職、また民間の施設・組織における専門職等、ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲について諸外国の動向も踏まえ理解を深める。加えて、ソーシャルワークにおけミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、それぞれのレベルにおける支援の実際と相互の関連性を学ぶ。ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解する。				
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規			
提出課題	レポート設題 1	メゾ・ミクロ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について述べよ。			
	学修のポイント1	社会福祉士が活躍する様々な職域について述べる。			
	学修のポイント2	社会福祉行政、民間の社会福祉施設・組織における社会福祉専門職について述べる。			
	学修のポイント3	アメリカ、イギリス、北欧諸国のソーシャルワーカーの養成制度や実践分野について述べる。			
	学修のポイント4	ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロの意味と相互の関係について述べる。			
	学修のポイント5	ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点について説明する。			
	学修のポイント6	ジェネラリストの視点にもとづく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について説明する。			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		ソーシャルワーク専門職の概念と範囲			
第2回		社会福祉士の職域と役割①			
第3回		社会福祉士の職域と役割②			
第4回		総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点①			
第5回		総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点②			
第6回		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象			
第7回		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開①			
第8回		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開②			
第9回		ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容①			
第10回		ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容②			
第11回		多様な組織・機関・団体における専門職			
第12回		諸外国の動向			
第13回		多職種連携及びチームアプローチの意義と内容①			
第14回		多職種連携及びチームアプローチの意義と内容②			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性、提出期限を評価する。		
備考		授業中の居眠り、私語、無断でのスマートフォン等の使用、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価とします。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅱ		講師: 高橋直子	
科目概要・目標	エクセルの基本の習得とその応用で、簡単な表、グラフ作成、基本的な関数の使い方を学習する。				
教科書	配布資料を基に学習を進める。				
期末試験	実技課題を1つ作成する。				
回数	授業内容				
第1回	Excel基礎・計算・合計・表作成				
第2回	グラフの作成				
第3回	絶対参照				
第4回	IF関数				
第5回	順位(RANK.EQ関数)				
第6回	件数(COUNTA関数)と作表機能				
第7回	端数処理(ROUND関数・ROUNDUP関数・ROUNDDOWN関数)				
第8回	複数条件1 (IF関数とIF関数)				
第9回	複数条件2 (AND関数・OR関数)				
第10回	表検索(VLOOKUP関数)				
第11回	並び替え				
第12回	復習				
第13回	復習				
第14回	復習				
第15回	試験対策				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止 事前に配布された資料等は目を通して授業に臨むこと				

(講義)		科目名:家族社会学		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標	現代社会において、家族は機能においても、形においても多様化している。こうした多様化している家族の家庭環境を理解するだけでなく、家族を取り巻く社会問題をも理解することがこの講義のねらいである。				
教科書		配布資料を基に学習を進める			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		導入			
第2回		家族観の変遷			
第3回		結婚観の変遷(1)			
第4回		結婚観の変遷(2)			
第5回		調べ学習:ガイダンス			
第6回		子ども観の変遷			
第7回		少子化の現状			
第8回		発表準備(1)			
第9回		胎児期、出産の現状と問題点(1)			
第10回		胎児期、出産の現状と問題点(2)			
第11回		胎児期、出産の現状と問題点(3)			
第12回		発表準備(2)			
第13回		発表日			
第14回		胎児期、出産の現状と問題点(4)			
第15回		障がいと家族			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	記述式		
	授業内評価	25点	発表内容による		
		15点	授業態度(意欲、態度、グループワークの様子、コメント記入など総合的に)		
備考		事前に配布された資料等は目を通して授業に臨むこと。			

(講義)		科目名:発達心理学		講師: 木村洋太	
科目概要・目標		従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。			
教科書		無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達の的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて、対応について考察せよ。 ＜ポイント＞人間が社会との関わりの中でどのように発達していくかに着目しながら考察すること。			
	レポート設題2 (清書は心理のみ)	虐待と発達の障害との関係について述べよ。 ＜ポイント＞乳幼児期の不適切な環境は子どもの発達に著しい影響を与える。被虐待児の半数弱に発達障害が伴うという現状をふまえて、その理由や対策を考察すること。			
	学修のポイント1	ライフサイクルからみた人間の発達について。			
	学修のポイント2	発達のメカニズムについて			
	学修のポイント3	ライフサイクルにおける発達の問題について			
	学修のポイント4	発達障害について			
	学修のポイント5	認知機能の発達について			
	学修のポイント6	乳児期における愛着形成について			
期末試験		発達における問題について			
回数		授業内容			
第1回		エリクソンのライフサイクルについて、発達基礎			
第2回		発達障害について 家族理解も含めて			
第3回		発達障害の詳説			
第4回		障害の違いと教育支援のあり方			
第5回		乳児から老年期の発達②			
第6回		乳児から老年期の発達③			
第7回		乳児から老年期の発達④			
第8回		乳児から老年期の発達⑤			
第9回		愛着の理論について			
第10回		愛着の役割			
第11回		子育ての難しさと虐待について、その後の影響について			
第12回		ピアジェの認知発達理論①			
第13回		ピアジェの認知発達理論②			
第14回		発達を支える大人の役割			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	30点	授業態度、レポート課題への取り組み(期限厳守、添削からの修正努力)などを総合的に評価する		
備考		授業では、子どものビデオや障害のビデオなどをみながら、理解を深めます。			

(講義)		科目名:心理学的支援法(基礎)		講師: 橋本景子	
科目概要・目標	カウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界やカウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについて理解し、面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスについて基礎的な内容を学ぶ。また、カウンセラーの基本的態度や面接技法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について、討議や演習を通して実践的に理解する。さらに、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮などの倫理的側面についても理解する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
教科書		河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』 誠信書房			
提出課題	レポート設題1	カウンセリングが発展するに至った近代以降の歴史を簡潔に述べ、どういう人を対象としてどのように進めていくのか、その技法などに触れながら述べよ。			
	学修のポイント1	心理学的支援とは何か			
	学修のポイント2	心理学的支援の過程について			
	学修のポイント3	支援対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について			
	学修のポイント4	心理学的支援を行う者の基本的態度について			
	学修のポイント5	心理学的支援を行う者と支援対象者との関係について			
	学修のポイント6	カウンセラーの訓練、心理学的支援を行う際のプライバシーへの配慮について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		心理学的支援とカウンセリングが発展するに至った歴史 (AR1)			
第2回		カウンセリングの対象となる人々とその進め方 (AR2)			
第3回		様々なカウンセリング技法(療法) (AR3)			
第4回		設題の仕上げ			
第5回		P.3 聴くことの意味とコミュニケーションの方法1 (pp.2～37)			
第6回		P.3 聴くことの意味とコミュニケーションの方法2 (pp.2～37)			
第7回		P.4 心理学的支援を行う者の基本的態度 (pp.95～107)			
第8回		P.4 カウンセリングにおける二律背反性 (pp.82～95)			
第9回		p.6 カウンセラーの訓練、3つの枠、座る位置など (AR4)			
第10回		P.6 カウンセラーの訓練とプライバシーへの配慮 (pp.178～195)			
第11回		心理学的支援(カウンセリング)の中断と終結 (pp.150～172)			
第12回		心理学的支援を行う者と支援対象者との関係 (pp.204～223)			
第13回		カウンセリングと相談との違い、精神病について			
第14回		カウンセラーの仕事 (pp.228～248)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	アクティブ・リコール 5点×4=20点		
		20点	期限内提出(5回の提出があるので)期限内提出者には各4点加点する)		
備考		設題は1回目から3回目にかけて少しずつ書いていくのでPCを持ってくるください。 学修のポイント等の提出日は、授業で行った翌週で期限内提出が評価に含まれます。			

(講義)		科目名:レクリエーション理論		講師:山口榮三	
科目概要・目標	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などに関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。				
	教科書	日本レクリエーション協会編著『楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会、2017。 参考文献:必要に応じて授業内でプリントを配布する。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(講義概要の説明)				
第2回	レクリエーションの支援とは レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第3回	レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第4回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 1. 楽しさをとおした心の元気づくりの理解				
第5回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 2. ライフスタイルと心の元気づくり				
第6回	子どもや高齢者の心の元気づくり／障がいのある人の心の元気づくり				
第7回	レクリエーション支援の理論 1. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 ▶気持ちをひとつにするための意思疎通				
第8回	レクリエーション支援の理論 2. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論▶意思疎通の方法				
第9回	レクリエーション支援の理論 3. 対象者との信頼関係 ▶信頼関係 ▶お互いに分かり合っていると思えるようにする方法				
第10回	レクリエーション支援の理論 4.信頼関係づくりの方法▶ホスピタリティ▶対象者の気持ちを受け止める・受け止めていることを伝える				
第11回	良好な集団づくりの理論 1. 集団づくりの理解 ▶数の集まりから心の元気づくりを助け合える集まり				
第12回	良好な集団づくりの理論 集団内のコミュニケーションの促進 ▶集団の成長を見通したかかわり方▶コミュニケーションを段階的に促進する				
第13回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 1. 自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 2. 成功体験を支え合う対象者のかかわり				
第14回	レクリエーション活動の安全管理				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
		10点	授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。 遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。				

(演習)		科目名:精神保健福祉演習Ⅰ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅰは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、ソーシャルワークの過程を通じた援助、個別面接、グループワークの展開やリハビリテーションプログラムの実践、また社会福祉調査や普及啓発活動といった間接的なソーシャルワーク実践について総合的にその技術を習得する。また、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅰが終了した時点で、精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識・技術・価値)の基礎を獲得することが期待される。				
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	自己覚知について説明するとともに、自己覚知の必要の可否、及びその理由を述べよ。			
	学修のポイント1	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取る方法について述べよ。			
	学修のポイント2	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のアセスメントについて述べる。			
	学修のポイント3	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメントについて述べよ。			
	学修のポイント4	社会福祉調査について述べよ。			
	学修のポイント5	コミュニティソーシャルワークについて述べよ。			
	学修のポイント6	ソーシャルワーク専門職の記録について述べよ。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		自己覚知とは			
第2回		ジェノグラム、エコマップ、タイムライン			
第3回		コミュニケーションとは			
第4回		基本的な面接技術(傾聴・共感・距離)			
第5回		基本的な面接技術(面接における基本的応答)			
第6回		グループダイナミクス(概念の理解・活用)			
第7回		グループワークの意義・活用			
第8回		情報の収集(原則の理解)			
第9回		情報の整理・伝達			
第10回		記録(記録の必要性)			
第11回		記録(作成上の留意点)			
第12回		地域福祉の基盤整備(福祉ニーズの必要性)			
第13回		地域福祉の基盤整備(コミュニティ・アウトリーチ等)			
第14回		統括			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	考察力・発言力・その他		
備考					

(講義)		科目名:精神保健福祉実習指導Ⅰ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉実習指導Ⅰは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。				
	精神保健福祉実習指導Ⅰでは、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として行う。				
	精神保健福祉実習指導Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。				
	①精神保健福祉士実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 ④資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 ⑤個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。				
教科書		・『最新精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)』中央法規 ・東京福祉大学『福祉・保育実習の手引き』			
提出課題	レポート設題 1	これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、施設(種別)について具体的に施設の例を挙げ、その施設(種別)における社会福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。			
	学修のポイント1	精神保健福祉実習の意義と内容について述べよ			
	学修のポイント2	実習契約の意義とリスクマネジメントについて述べよ			
	学修のポイント3	精神疾患や精神障害のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について述べよ			
	学修のポイント4	実習先を理解する意義について述べよ			
	学修のポイント5	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務について述べよ			
	学修のポイント6	個人のプライバシーの保護と守秘義務について述べよ			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		精神保健福祉実習Ⅰでの学習方法、学ぶべき項目について			
第2回		精神保健福祉援助実習の全体像(実習までの流れ)について			
第3回		専門職養成における実習の意義の理解			
第4回		精神保健福祉士を目指す自己の動機の明確化			
第5回		事前学習の意義の理解・精神保健医療福祉の歴史・現状利用者理解について			
第6回		精神保健福祉医療福祉に関する知識 ・ 主な精神疾患の知識と理解			
第7回		精神保健福祉医療福祉に関する知識 必要とされる精保士の専門的技術			
第8回		精神保健福祉医療福祉に関する知識 精保士に求められる職業倫理と法的責務			
第9回		実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解			
第10回		実習先施設・機関の基本的理解① 実習可能な施設・機関の紹介等			
第11回		実習先施設・機関の基本的理解② 医療機関			
第12回		実習先施設・機関の基本的理解③ 障害福祉サービス事業所			
第13回		実習先施設・機関の基本的理解④ 行政			
第14回		総括(学習のまとめ)			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	考察力・発言力・その他		
備考					

(講義)		科目名:ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		講師:森奈祐	
科目概要・目標	ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。 ソーシャルワーク実習指導Ⅰが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。				
	1)ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習の意義について理解する。				
	2)実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。				
	3)資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。				
4)個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。					
教科書		『最新社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	これまでの学修や経験を踏まえ、資格取得動機を論じるとともに、施設(種別)について具体的に施設の例を挙げまとめ、その施設(種別)における社会福祉実践に実習生として参加する自分が何を感じとり、学ぶのか(実習の動機)を述べよ。 ＜ポイント＞①(資格取得の動機)これまでの学修や経験を踏まえて、資格取得を希望したのはなぜか、その専門性を今後どのように役立てたいかについて述べる。②(施設のまとめ)施設(種別)における支援の対象者(利用者)に対し、主な支援内容、背景、根拠となる法律を調査し、施設名を例に挙げて具体的にまとめ、論述する。③(実習志望の動機)①、②の内容を踏まえ、実習生として現場の福祉実践に参加するとき、自分がそこで何を感じとり、学ぶのか、具体的に述べる。			
	学修のポイント1	実習契約の意義とリスクマネジメントについて			
	学修のポイント2	ソーシャルワーク実習の位置づけと内容について			
	学修のポイント3	実習の場と形態について			
	学修のポイント4	スーパービジョンの意義について			
	学修のポイント5	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について			
	学修のポイント6	事前学習として実習先を理解する意義について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション、ねらいの解説・講義の進め方、実習契約の意義			
第2回		ソーシャルワーク実習の位置づけと内容について①			
第3回		ソーシャルワーク実習の位置づけと内容について②			
第4回		ソーシャルワーク実習が可能な施設・機関の紹介と説明			
第5回		ソーシャルワーク実習の全体像			
第6回		スーパービジョンの意義について①			
第7回		スーパービジョンの意義について②			
第8回		事前学習として実習先を理解する意義について①			
第9回		事前学習として実習先を理解する意義について②			
第10回		実習先の理解、配属先の実習施設・機関に関する情報収集①			
第11回		実習先の理解、配属先の実習施設・機関に関する情報収集②			
第12回		実習の場と形態について			
第13回		ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について			
第14回		学習のまとめ、実習に向けた課題の明確化			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業態度、グループワーク等への参加、授業中の発言等、積極性、提出物期限を評価する。		
備考					

(講義)		科目名:児童心理学		講師: 平石太一	
科目概要・目標	本科目では、児童の健やかな成長を促すために必要な知識を、教育心理学・発達心理学の視点から身につけることを目的とする。そのため、まず、児童心理学における主要な概念や研究方法を紹介し、さらには運動能力、知性、社会性などの諸機能の発達の變化を概説する。そして、それらの発達に即してどのような教育が必要なのか、また、遊びはどのような意義を持ていくのか考えていく。子どもの発達について、関心を高め、より具体的なイメージが持てるようにする。				
教科書		無藤隆 児童心理学 放送大学教育振興会			
提出課題	レポート設題1	家庭と地域社会における保育のあり方について述べよ。			
	レポート設題2	乳幼児の心理についてまとめよ。			
	学修のポイント1	発達における個人差について			
	学修のポイント2	発達の理解の方法について			
	学修のポイント3	愛着の形成について			
	学修のポイント4	情緒の発達について			
	学修のポイント5	子どもの社会化について			
	学修のポイント6	児童期の発達について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 発達における個人差について			
第2回		発達の理解の方法について			
第3回		愛着の形成について			
第4回		情緒の発達について			
第5回		子どもと家族			
第6回		子どもと現代社会			
第7回		子どもと問題1			
第8回		子どもと問題2			
第9回		子どもと問題3			
第10回		子どもの社会化について			
第11回		児童期の発達について			
第12回		子どもの心を知る1			
第13回		子どもの心を知る2			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述内容		
	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。		
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:精神障害リハビリテーション論		講師: 眞口 良美	
科目概要・目標	以下の①～③を目標に、下記の学修内容を学んでいく。 ①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。				
	教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論』中央法規			
提出課題	レポート設題1	精神障害リハビリテーションの価値背景に影響を与えた実践や考え方を説明し、精神障害(精神科)リハビリテーションの原則と特性を述べよ。 ＜ポイント＞ リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ、レジリエンス、多職種連携などの考え方について各々説明し、アンソニーなどが唱えた精神科リハビリテーションの原則、あるいは共通する原則を述べ、精神障害リハビリテーションの特性(①当事者の参加、②個別性の重視、③生活環境への適応、④技能の育成、⑤環境面への介入、⑥多職種・当事者・市民との協働、⑦希望、⑧自尊心の回復、⑨科学的根拠に基づいた支援・協働)を自分の言葉で説明する。			
	学修のポイント1	1. 精神障害リハビリテーションの原則について述べよ。			
	学修のポイント2	2. 精神障害リハビリテーションのプロセスについて述べよ。			
	学修のポイント3	3. 医学的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ以上挙げ、それぞれを説明せよ。			
	学修のポイント4	4. 職業的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明せよ。			
	学修のポイント5	5. 社会的な精神障害リハビリテーションプログラムの代表的なものを5つ挙げ、それぞれを説明せよ。			
	学修のポイント6	6. ①家族支援プログラムおよび②当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて説明せよ。			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		精神障害者リハビリテーションとソーシャルワーク 精神障害リハビリテーションの理念と定義			
第2回		医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 精神障害リハビリテーションの基本原則			
第3回		地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 精神障害リハビリテーションの対象			
第4回		チームアプローチ 精神科リハビリテーションのプロセス			
第5回		医学的リハビリテーションプログラム			
第6回		職業的リハビリテーションプログラム 社会的リハビリテーションプログラム			
第7回		教育的リハビリテーションプログラム			
第8回		家族支援プログラム			
第9回		リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション			
第10回		依存症のリハビリテーション			
第11回		期末試験			
第12回		科目終了試験			
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	点			
	授業内評価	20点	課題提出物の評価		
		20点	授業への関心・態度・意欲		
備考					

社会福祉学科

社会福祉コース

3年生

2025年度 後期

(講義)		科目名:福祉教養演習Ⅱ		講師：堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。双方に共通する問題を実施する。				
教科書	社会福祉士・精神保健福祉士「過去問解説集2026」(中央法規出版)を使用します。				
回数	授業内容				
第1回	社会保障				
第2回	社会保障				
第3回	社会保障				
第4回	社会保障				
第5回	確認テスト(社会保障)				
第6回	地域福祉と包括的支援体制				
第7回	地域福祉と包括的支援体制				
第8回	地域福祉と包括的支援体制				
第9回	地域福祉と包括的支援体制				
第10回	確認テスト(地域福祉と包括的支援体制)				
第11回	障害者福祉				
第12回	障害者福祉				
第13回	障害者福祉				
第14回	確認テスト(障害者福祉)				
第15回	総まとめ(期末テスト対策)				
第16回	期末試験① ②				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後期末試験		
	授業内評価	10点	積極的な授業への関与や発言を評価する。		
		20点	確認テスト		
備考	基礎をしっかり学習します。				

2025年度 後期

(講義)		科目名:教養演習Ⅱ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。 なお、外部の講師による就職対策講座が入る可能性がある。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		履歴書・面接対策講座 (マイナビ)			
第10回		学園祭読み替え(休講)			
第11回		学内企業・法人説明会(musbun)			
第12回		学園祭読み替え(休講)			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱える問題の複雑化・多様化に対応するため、地域共生社会の実現に向け、ソーシャルワーカーにはさまざまな実践が求められる。本科目では、総合的かつ包括的な支援の展開についてのイメージを描きやすくするために、家庭支援、地域支援、非常時や災害時支援 の三つの実践について学ぶ。さらに、援助関係の形成方法や留意点、ネットワークの形成、社会資源の活用・調整・開発、カンファレンス、事例分析、事例検討、事例研究、ソーシャルワークに関連する技法(ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティング)についての理解を深める。				
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの 理論と方法(社会専門) 』中央法規			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法や留意点について述べよ ①援助関係の形成方法と留意点について説明する ②援助関係形成におけるコミュニケーションとラポールの意義と方法について説明する			
	レポート設題2	社会資源の開発について述べよ ①ジェネラリスト・ソーシャルにおける社会資源開発の捉え方について説明する ②社会資源開発のさまざまな方法について説明する ③社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルについて説明する			
	学修のポイント1	総合的かつ包括的な支援の考え方について			
	学修のポイント2	クライアントシステムならびにソーシャルワークの実践レベルと援助関係について			
	学修のポイント3	ネットワーキングの概念及び展開方法について			
	学修のポイント4	ソーシャルワーク実践と社会資源との関係について			
	学修のポイント5	事例分析と事例検討について			
	学修のポイント6	ネゴシエーションについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		総合的かつ包括的な支援の考え方			
第3回		ソーシャルワークにおける援助関係の形成			
第4回		援助関係形成の意義と概念			
第5回		援助関係形成におけるコミュニケーションとラポールの意義と方法			
第6回		ネットワーキング			
第7回		ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発			
第8回		ソーシャルワーク実践と社会資源			
第9回		ジェネラリスト・ソーシャルにおける社会資源開発の捉え方			
第10回		事例分析の目的と意義			
第11回		事例検討会の方法			
第12回		カンファレンス			
第13回		ソーシャルワークに関連する技法			
第14回		地域支援・非常時や災害時支援の実際			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言の積極性、提出期限を評価する。		
備考					

(講義)		科目名:障害者福祉論		講師: 逆瀬川浩二	
科目概要・目標	今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者と家族等への支援、障害の種類の多様性とニーズの多様性等、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で活きる理解を深める。				
	(実務経験を有する講師による受講の補足) 当科目は、社会福祉士として障害者施設の管理者を務める講師のもと、福祉の現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規			
提出課題	レポート設題1	障害者の自立支援の現状と課題について述べてください。 (障害者の社会参加を支援するための法整備や施策について整理し、今後のあり方について自分なりに考察すること)			
	学修のポイント1	障害者福祉の基本理念について			
	学修のポイント2	障害の概念について			
	学修のポイント3	ノーマライゼーションの理念について			
	学修のポイント4	障害者福祉の法体系とサービス内容について			
	学修のポイント5	障害者権利条約について			
	学修のポイント6	障害者福祉分野における多職種連携について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		障害者の定義と特性、国際生活機能分類(ICIDH・ICF)について			
第3回		障害者の統計、歴史について			
第4回		DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)			
第5回		DVD鑑賞(こんな夜更けにバナナかよ)			
第6回		障害者に対する法制度①(身体障害、知的障害、精神障害)			
第7回		障害者に対する法制度②(児童福祉法、発達障害者支援法、障害児、児童相談所)			
第8回		障害者に対する法制度③(障害者総合支援法:法の概要を理解し理念・考え方、支給決定のプロセス、障害福祉サービス等を理解する)			
第9回		障害者に対する法制度④(障害者総合支援法:自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画等)			
第10回		障害者に対する法制度⑤(障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法)			
第11回		DVD鑑賞(アイムサム)			
第12回		DVD鑑賞(アイムサム)			
第13回		障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について(行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、スクールソーシャルワーカー、サービス管理責任者等)			
第14回		補講:障害者と家族等に対する支援の実際について ～事例を通して～			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日発表		
	授業内評価	30点	提出物		
		20点	授業態度		
備考		参考資料:よくわかる障害者福祉 第7版 小澤 温 編 ※12月16日(火)休講⇒2月10日(火)補講			

(講義)		科目名:社会病理		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標	社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。1) 社会病理とは何か、2) 社会病理の発生・形成過程、3) 社会生活に及ぼす影響、これらを非行・犯罪、自殺、アルコール依存、児童虐待などの事例を用いながら学修する。				
教科書		米川茂信、他『成熟社会の病理学』学文社。 (参考書) 米川茂信『現代病理学—社会学的アプローチ—』学文社。			
提出課題	レポート設題1	「高学歴化社会」について述べよ。			
	レポート設題2 (社福のみ清書提出)	「高齢化」に伴う社会病理について述べよ。 ※社会福祉コースの学生のみ提出			
	学修のポイント1	「成熟社会」が抱える病理現象について			
	学修のポイント2	「学校化社会」について			
	学修のポイント3	「働きすぎ社会」の病理現象について			
	学修のポイント4	「資格化の進展」に伴う病理現象について			
	学修のポイント5	「高齢者」に伴う社会病理について			
	学修のポイント6	国際化と環境問題について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		成熟社会の概念と病理認識について			
第2回		学校化社会について			
第3回		高学歴化社会について			
第4回		レポート作成日			
第5回		「高齢化」に伴う社会病理について			
第6回		高齢者の社会的扶養・介護と福祉・介護マンパワー問題について			
第7回		高齢者犯罪について			
第8回		スポーツ参加の社会病理について			
第9回		「働きすぎ社会」の社会病理について			
第10回		「資格化の進展」に伴う病理現象について			
第11回		「国際化」の社会病理について			
第12回		環境問題の社会病理について			
第13回		非行・犯罪について			
第14回		自殺について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	35点	論述式		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本または2本、レポート下書き1本または2本×5点)提出遅れは減点		
		15点	授業態度(態度、発言、グループワークの様子などから総合的に判断します。※授業中のイヤフォンの装着は音が流れていなかったとしても減点の対象です。また、私語は周囲の迷惑になるため厳禁です。マナーを守りましょう。)		
備考		※社福 3 年は「レポート設題 2」の作成補講を 3 コマ開講 12/1 (月) 3・4・5 限目			

(講義)		科目名:障害児療育		講師: 花木元司	
科目概要・目標	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場としての統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的な知識と対応力の向上は必須となっている。本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識を踏まえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にあたる保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携などに視点を置きながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。				
教科書		【教科書】市川奈緒子 岡本仁美「発達が気になる子どもの 療育・発達支援入門」金子書房 【参考文献】 尾崎康子、他「よくわかる障害児保育」ミネルバ書房			
提出課題	レポート設題1	保育の場で出会う可能性のある心身の障害について、いくつかのタイプを例に挙げ、それぞれの特徴を示すとともに起こりうる生活上の困難さと支援の在り方について述べよ。			
	学修のポイント1	1.早期発見・早期療育について			
	学修のポイント2	2.保育所における「気になる子」の支援について			
	学修のポイント3	3.療育における専門性と地域支援に求められる役割について			
	学修のポイント4	4.療育におけるチームアプローチについて			
	学修のポイント5	5.発達障害における2次障害について			
	学修のポイント6	6.障害児保育の変遷と課題について			
期末試験		持ち込み不可の一問一答形式で試験を行う予定			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 障害とは何か P1～P9			
第2回		早期発見・早期療育についてポイント① P142～P159			
第3回		早期発見・早期療育について			
第4回		障害のさまざま(知的障害、ダウン症) P10～P11			
第5回		障害のさまざま(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害) P18～P25			
第6回		障害のさまざま(ASD) P16～P17			
第7回		保育所における「気になる子」への支援について ポイント② P12～P15			
第8回		保育所における「気になる子」への支援について P12～P15			
第9回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について ポイント③P121～P141			
第10回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について P166～P176			
第11回		療育におけるチームアプローチについて ポイント④		P27～P39	
第12回		発達障害における2次障害について ポイント⑤			
第13回		障害児保育の変遷と課題について ポイント⑥			
第14回		まとめ 発達支援の方法			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考		授業中の居眠り、携帯電話の使用、音楽などの聴取、その他授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、減点の対象とします。			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	レクリエーション支援の展開方法 個別及び集団レクリエーション支援				
第3回	ウォークラリー企画 目的・テーマ設定等の企画グループミーティング				
第4回	ウォークラリー企画 コース下見 1回目				
第5回	ウォークラリー企画 コマ図作成				
第6回	ウォークラリーの実践				
第7回	レクリエーション支援実習1 支援の方法、内容についてグループミーティング				
第8回	レクリエーション支援実習2				
第9回	レクリエーション支援実習3				
第10回	レクリエーション支援実習4				
第11回	レクリエーション支援実習5				
第12回	レクリエーション支援実習6				
第13回	レクリエーション支援実習7				
第14回	レクリエーション支援実習8				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画案の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(実技)		科目名:情報処理演習Ⅰ		講師: 室山 俊浩	
科目概要・目標	コンピュータの基本操作・基本知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。				
教科書		奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社			
提出課題	レポート設題1	最近一ヶ月以内にインターネットで起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。			
	レポート設題2	インターネットの光と影について、それぞれ、具体的な例を挙げて述べよ			
	学修のポイント1				
	学修のポイント2				
	学修のポイント3				
	学修のポイント4				
	学修のポイント5				
	学修のポイント6				
期末試験		実技課題（科目終了試験を兼ねる）			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / レポート対策 設題 「インターネットで起きた事件」			
第2回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第3回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第4回		レポート対策 設題 「インターネットの光と影」 / レポート下書作成			
第5回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第6回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第7回		実技指導			
第8回		実技指導			
第9回		実技指導			
第10回		実技指導			
第11回		実技指導			
第12回		実技指導			
第13回		実技指導			
第14回		実技指導			
第15回		実技指導			
第16回		期末試験/科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	実技試験 科目終了試験を兼ねる 持ち込み不可		
	授業内評価	30点	授業内課題作成状況、内容など		
備考		レポートはWordを用いて作成する事。手書き不可。			

(演習)		科目名:心理学的支援法(演習)(心理2単位)/ カウンセリング演習(社福・教育4単位)		講師: 橋本景子
科目概要・目標	カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法(認知行動療法)の三つを中心に学修していく。また、訪問による支援や地域支援の意義、心の健康教育についても学ぶ。			
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士として、中学校、高等学校、大学、市役所等でカウンセリングを行ってきた講師のもと、業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。			
教科書		福島脩美著『総説カウンセリング心理学』 金子書房		
提出課題	レポート設題1	現代人の生活とカウンセリングについて考え、カウンセリングがどうあるべきか述べよ。		
	レポート設題2 (社福・教育のみ提出)	カウンセリングの歴史と課題について述べ、これからのカウンセラーに必要な資質とは何かを述べよ。		
	学修のポイント1	パーソナリティーの成長論について		
	学修のポイント2	クライエント中心カウンセリングについて		
	学修のポイント3	認知行動カウンセリングについて		
	学修のポイント4	精神分析的カウンセリングについて		
	学修のポイント5	交流分析について		
	学修のポイント6	さまざまなクライエントに対する対応について		
期末試験		後日指示		
回数		授業内容		
第1回		カウンセリングとは何か(テキストpp.2～21)		
第2回		設題1作成指導:現代人の生活についてDiscussion		
第3回		設題1作成		
第4回		ロールプレイ		
第5回		カウンセリングの実際を学ぶ①(DVDから)		
第6回		カウンセリングの実際を学ぶ②(DVDから)		
第7回		カウンセリングの実際を学ぶ③(DVDから)		
第8回		カウンセリングの基本的態度と技法(テキストpp.78～81)		
第9回		P.1 パーソナリティーの成長論について		
第10回		P.3 認知行動カウンセリングについて(テキストpp.210)		
第11回		「聴く」ということはどういうことか検証する		
第12回		P.6 カウンセリングの構造と機能(テキストpp.45～59)		
第13回		カウンセリングの初めから終わりまで(テキストpp.61～77)		
第14回		専門家としての学び(テキストpp.244～269)		
第15回		期末試験		
第16回		科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	50点		
	授業内評価	20点	期限内提出(提出が4回あるので、期限内提出者には各5点加点する。)	
			*ただし設題2は除く	
備考		「学修のポイント」の提出日は、授業で行った翌週で評価に含まれます。		

(講義)		科目名:障害者・障害児心理学 (社福・保育は「障害児・者の心理」)		講師: 原田 亘	
科目概要・目標	障害者の心理を学ぶことは、障害の種類について理解することから始まる。それは、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、精神障害といったものが挙げられ、それぞれの障害ごとに学修する。また、心理学的視点から見た、それぞれの障害を持つことでの行動パターンや心理特性について学んでいく。障害児・者に関わる専門家にとって、それぞれの障害の原因や症状に関わる、科学的な基礎理解が不可欠である。症状を引き起こすメカニズムや、重症度やその予後などが正確に理解できていなければ、行動を客観的に評価できず、十分な心理的援助が期待できない。すなわち適切な心理的援助をするためにも、生理的・病理的な基本理解が必要であることを認識すべきである。その上で、人間学的視点から、障害児・者としていかに生きるか、その家族としていかに生きるか、それを専門家としてどのように支えるのかについて考察を進め、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		太田信夫監修、柿崎敏文編『シリーズ心理学と仕事 障害者心理学』北大路書房。			
提出課題	レポート設題1	障害児・者に共通する心理的問題は何か述べよ。			
	学修のポイント1	中途障害者の障害受容過程段階説について			
	学修のポイント2	障害児の親の心理について			
	学修のポイント3	知的障害児・者の心理・行動特徴について			
	学修のポイント4	自閉症スペクトラム障害の援助について			
	学修のポイント5	聴覚障害児・者のコミュニケーションについて			
	学修のポイント6	抑うつ障害者の援助について			
期末試験		障害児・者の支援において、あなたが大切にしたいことを述べなさい。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション／「障害」について考えよう			
第2回		障害児・者の心理的問題と支援①			
第3回		障害児・者の心理的問題と支援②			
第4回		障害児・者の心理的問題と支援③			
第5回		障害児・者の心理的問題と支援④／レポート作成			
第6回		聴覚障害者の心理について			
第7回		知的障害者の心理について			
第8回		自閉スペクトラム症について			
第9回		中途障害者の心理について			
第10回		障害児の親の心理について			
第11回		精神障害者の心理について			
第12回		障害児・者に関する心理査定			
第13回		【事例検討1】「自閉スペクトラム症に関する支援」			
第14回		【事例検討2】「障害児の親に関する支援」			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	持込可		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。		
30点		授業態度。授業は積極的に参加すること。			
備考		障害児・者とその家族を取り巻く環境と具体的な支援方法の関係について、常に考えながら受講していただくことを望みます。			

(講義)		科目名:社会心理学		講師: 平野 麻里菜	
科目概要・目標	社会心理学は、社会学と心理学との境界領域にあたる分野で、人が他者(自分以外の異質な存在)との関係の中で、人の態度や認知に表れる、様々な特徴を解明することを主なねらいとしている。学修内容としては、他者や社会が個人の態度や認知にどのように影響するか(光背効果や社会的促進)や、個人と個人との関係や相互作用(ハイダーの認知的均衡理論やフェスティンガーの認知的不協和理論)などを取り上げる。その他、集団を構成するメンバーの心理、グループダイナミクス、傍観者効果、リーダーシップ、消費行動などについても考察していく。				
教科書		池上知子・遠藤由美『グラフィック社会心理学』サイエンス社 2016年			
提出課題	レポート設題1	社会的相互作用について述べよ。 ＜ポイント＞社会的相互作用と社会心理学との関連性についても考察すること。			
	学修のポイント1	都市化と人間について			
	学修のポイント2	ル・ボンの群衆心理の特徴について			
	学修のポイント3	エリクソンの発達理論について			
	学修のポイント4	フェスティンガーの認知的不協和理論について			
	学修のポイント5	アニミズムとシャーマニズムについて			
	学修のポイント6	推論のエラーとバイアスについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		「渋谷ハロウィン」の心理状態を考える			
第2回		～群衆心理～			
第3回		「他者」や「集団」がもたらす ”いいこと”、”気を付けた方がよいこと”とは？ ～社会的相互作用～			
第4回					
第5回					
第6回		「酸っぱいぶどう」経験を思い出そう			
第7回		～認知的不協和～			
第8回		「赤信号 みんなで渡れば 怖くない」の心理 ～集合行動が形成される過程～			
第9回					
第10回					
第11回		「晴れ男(女)、雨女(男)」伝説の真相に迫る			
第12回		～確証バイアス～			
第13回		アニミズムやシャーマニズムと心の関係とは？			
第14回		まとめ・試験対策			
第15回		期末試験(対面)			
第16回		科目終了試験(対面)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式・多肢選択式		
	授業内評価	30点	評価ポイント:提出物の内容・提出期限を守れたか ※遅れた場合は減点		
		10点	評価ポイント:授業内課題・授業態度・忘れ物 ※遅れた場合は減点		
備考 ※集中講義につき、通常科目と対応が異なるので注意！		【提出課題 提出方法】 この科目に限り、提出先は＜学科事務(社福職員室)＞とします。 詳細は事務の先生方の指示に従ってください。 【受講上の注意】 社会心理学は心理学の中でも特に難しい分野です。また、今回はオンライン授業形式です。くれぐれも欠席しないようにしてください。当日、機材トラブルが生じた場合は必ず職員室に電話で状況を報告すること。「オンライン授業受講にあたっての留意点・心構え」を必ず確認の上、受講に臨んでください。			

社会福祉学科

社会福祉コース

4年生

(演習)		科目名:精神保健福祉演習Ⅲ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉演習Ⅲは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅲは、精神保健福祉援助の事例(集団に関する事例を含む。)を活用し、社会的排除や社会的孤立、退院支援や地域移行支援、地域生活支援、加えて自殺対策やひきこもり支援といった社会的課題へのアプローチについて実践的に学習するとともに、そのような支援を展開するために求められる職業倫理や職責、専門性の特質について考察を深める。 精神保健福祉演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去した共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ②精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。				
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	精神保健福祉専門職としての行動の基盤と職業アイデンティティについて述べよ。 <ポイント>精神保健福祉専門職として何を大切に行動するべきか、実践の拠り所とするべきものを挙げそれらについて説明する。さらに、職業アイデンティティについて述べる。			
	学修のポイント1	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人への差別や偏見について現在の日本社会の状況を踏まえ述べよ。			
	学修のポイント2	共生社会実現のための政策・制度への働きかけと関係行政や地域住民への働きかけについて述べよ。			
	学修のポイント3	ひきこもり支援の現状について述べよ。			
	学修のポイント4	家族支援の現状について述べよ。			
	学修のポイント5	災害被災者支援について述べよ。			
	学修のポイント6	触法精神障害者支援について述べよ。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ① 心理社会的アプローチ			
第2回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ② ストレングスアプローチ			
第3回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ③ エンパワメントアプローチ			
第4回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ④ 危機介入アプローチ			
第5回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑤ 問題解決アプローチ			
第6回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑥ 行動変容アプローチ			
第7回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑦ 家族システムアプローチ			
第8回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑧ ナラティブアプローチ			
第9回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑨ リカバリーアプローチ			
第10回		ソーシャルワーク理論の理解を深める ⑩ SST 心理教育を用いたリハビリテーション			
第11回		事例研究と理論の結合 ① 実習中の体験を事例として振り返る			
第12回		事例研究と理論の結合 ② 事例から自身が学んだことを考察する			
第13回		事例研究と理論の結合 ③体験した事例をソーシャルワーク理論と結合し理解する			
第14回		事例研究と理論の結合			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	考察力・発言力・その他		
備考		※集中授業で大学スクーリング単位取得に必要な10コマに絞った開講です。遅刻・欠席をすると2月に大学伊勢崎キャンパスで一般スクーリングを受講することになるので頑張って受講しましょう。			

(講義)		科目名:精神保健福祉実習指導Ⅲ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉実習指導Ⅲは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。精神保健福祉実習指導Ⅲは、精神保健福祉実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置づけられている。(実習)実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習)実践へと結びつける。(実習)実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。 精神保健福祉実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。②精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。③具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	実習記録を完成させ、「ソーシャルワーク実習全体を通して学んだこと(実習のまとめ)」を使用して実習を振り返り、まとめよ。			
	学修のポイント1	自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。			
	学修のポイント2	-			
	学修のポイント3				
	学修のポイント4				
	学修のポイント5				
	学修のポイント6				
期末試験					
回数	授業内容				
第1回	事後学習の具体的展開① 実習で学んだ事、体験したことを振り返る				
第2回	事後学習の具体的展開② 実習の経験や場面について多面的に考える				
第3回	事後学習の具体的展開③ 実習で得たこと、やり残したことは何か				
第4回	実習の評価の意味と評価実習評価① 評価の意味・視点方法について理解する				
第5回	実習の評価の意味と方法 評価項目について				
第6回	課題の整理と総括レポート 実習のまとめ・課題の整理				
第7回	実習報告 実習の報告書の作成				
第8回	実習評価の意義と目的 今後の学習や課題				
第9回	実習評価の内容と方法 技術・習得度の確認				
第10回	実習評価の内容と方法 精保士として具備すべき価値の習得				
第11回	実習評価の内容と方法 社会人として持つべき態度などについて				
第12回	実習評価の内容と方法 実習目標達成度の評価				
第13回	実習の各課程における評価 実習前・実習現場・事後の評価				
第14回	実習評価の種類 自己覚知・自己理解を深める				
第15回	期末試験				
第16回	科目修了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	考察力・発言力・その他		
備考					

(講義)		科目名： 専門研究Ⅳ		講師:山田 哲史	
科目概要・目標	社会人となってからも広く役に立つ教養を身につけることを視野に入れながら、今日に至る社会を築く上で大きな影響を及ぼしたと考えられている歴史上の出来事や人物にも着目し、その当時の状況を追体験することを通して、その当時の社会の状況やその関わりを持った人物の人となりを学ぶ機会を提供する。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		後日発表。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション/歴史上の出来事及び人物研究(1)			
第2回		歴史上の出来事及び人物研究(2)			
第3回		歴史上の出来事及び人物研究(3)			
第4回		歴史上の出来事及び人物研究(4)			
第5回		歴史上の出来事及び人物研究(5)			
第6回		歴史上の出来事及び人物研究(6)			
第7回		歴史上の出来事及び人物研究(7)			
第8回		歴史上の出来事及び人物研究(8)			
第9回		歴史上の出来事及び人物研究(9)			
第10回		歴史上の出来事及び人物研究(10)			
第11回		歴史上の出来事及び人物研究(11)			
第12回		歴史上の出来事及び人物研究(12)			
第13回		歴史上の出来事及び人物研究(13)			
第14回		歴史上の出来事及び人物研究(14)			
第15回		歴史上の出来事及び人物研究(15)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

2025年 後期

(講義)		科目名:社会福祉研究 I		講師：堀田 利恵		
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。双方に共通する問題と専門科目の一部を実施する。					
教科書	社会福祉士・精神保健福祉士「過去問解説集2025」「模擬問題集2026」各中央法規出版					
回数	授業内容					
第1回	過去問セレクト、内部模試問題ほか					
第2回	過去問セレクト、内部模試問題ほか					
第3回	外部模試ふりかえり、正解あわせ					
第4回	模擬テスト弱点克服					
第5回	模擬テスト弱点克服					
第6回	模擬テスト弱点克服					
第7回	模擬テスト弱点克服					
第8回	模擬テスト弱点克服					
第9回	模擬テスト弱点克服					
第10回	実力養成					
第11回	実力養成					
第12回	実力養成					
第13回	直前予想問題					
第14回	国家試験採点日					
第15回	期末試験					
第16回	期末試験(予備日)					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	40点	後期末試験			
	授業内評価	30点	模擬試験の採点結果とプレゼンテーション			
備考	国家試験まで、あと4カ月となりました。各々が弱点克服に努力します。12月からは個別学習、マンツーマン指導となります。					

(講義)		科目名:社会福祉研究Ⅱ		講師：堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。双方に共通する問題と専門科目の一部を実施する。				
	教科書	社会福祉士・精神保健福祉士「過去問解説集2025」「模擬問題集2026」各中央法規出版			
	回数	授業内容			
	第1回	過去問セレクト、内部模試問題ほか			
	第2回	過去問セレクト、内部模試問題ほか			
	第3回	外部模試ふりかえり、正解あわせ			
	第4回	模擬テスト弱点克服			
	第5回	模擬テスト弱点克服			
	第6回	模擬テスト弱点克服			
	第7回	模擬テスト弱点克服			
	第8回	模擬テスト弱点克服			
	第9回	模擬テスト弱点克服			
	第10回	実力養成			
	第11回	実力養成			
	第12回	実力養成			
	第13回	直前予想問題			
	第14回	国家試験採点日			
	第15回	期末試験			
	第16回	期末試験(予備日)			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後期末試験		
	授業内評価	30点	積極的な授業への関与や発言を評価する。		
備考		国家試験まで、あと4カ月となりました。各々が弱点克服に努力します。12月からは個別学習、マンツーマン指導となります。			

(講義)		科目名:福祉教養演習Ⅵ (精神保健福祉士・専門科目)		講師 : 堀田 利恵
科目概要・目標	本科目は、精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。専門科目を実施する。			
教科書	模擬問題の形式で、実際と同じ試験時間内に問題を解いて解答を合わせ、間違った問題は徹底して克服します。			
	精神保健福祉士国家試験「過去問解説集2025」「模擬問題集2026」各中央法規出版			
回数	授業内容			
第1回	過去問セレクト、内部模試問題ほか			
第2回	過去問セレクト、内部模試問題ほか			
第3回	過去問セレクト、内部模試問題ほか			
第4回	模擬テスト弱点克服			
第5回	模擬テスト弱点克服			
第6回	模擬テスト弱点克服			
第7回	模擬テスト弱点克服			
第8回	模擬テスト弱点克服			
第9回	模擬テスト弱点克服			
第10回	実力養成			
第11回	実力養成			
第12回	実力養成			
第13回	実力養成			
第14回	総復習			
第15回	直前予想問題			
第16回	期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	40点	後期末試験	
	授業内評価	30点	模擬試験の採点結果とプレゼンテーション	
備考	国家試験までわずか4ヶ月です。11月からは「模擬問題2026」の弱点克服と、当てられた問題に対する解答プレゼンテーションをしてもらいます。自分の言葉で正解を説明できることを目標とします。			

(講義)		科目名:ボランティア論		講師: 逆瀬川浩二	
科目概要・目標	「何か自分たちにもできることがあるに違いない」、「他者や社会の助けになりたい」という内的動機に支えられた活動には、そのための準備、トレーニング、実践体験の裏づけが必要である。ボランティアについての基礎理論を学修した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例(災害援助活動、国際交流、社会福祉活動等)を基に学修する。また、ボランティア活動を実際に体験し、その経験をもとに、より効果的なボランティア活動を行うために必要なことを考察していく。				
教科書		田中康雄・小口将典・竹下徹『最新・はじめて学ぶ社会福祉② ボランティア活動論』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	ボランティアの組織化・国際化と、求められるボランティア活動について述べてください。 (テキストp54～60の各図表からわかることや考えられることをもとに、ボランティアの組織化と国際化について述べる。また、活動主体と活動領域の両面から自己の体験や考えを踏まえ、求められるボランティア活動について考察すること)			
	学修のポイント1	子どもと子育て世代に対するボランティア活動について			
	学修のポイント2	障がいのある人や高齢者等の様々な人に対するボランティア活動について			
	学修のポイント3	災害時のボランティア活動について			
	学修のポイント4	地域・まちづくりとボランティア活動について			
	学修のポイント5	ボランティアと教育について			
	学修のポイント6	グローバルな視点による海外ボランティアについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		ボランティアの概念、歴史、研究動向について			
第3回		子どもと子育て世代に対するボランティア活動について			
第4回		DVD鑑賞(クロスロード)			
第5回		DVD鑑賞(クロスロード)			
第6回		障がいのある人や高齢者等の様々な人に対するボランティア活動について			
第7回		災害時のボランティア活動について			
第8回		地域・まちづくりとボランティア活動について			
第9回		ボランティアと教育について			
第10回		グローバルな視点による海外ボランティアについて			
第11回		DVD鑑賞(僕たちは世界を変えることができない。)			
第12回		DVD鑑賞(僕たちは世界を変えることができない。)			
第13回		ボランティアの可能性と限界について			
第14回		補講: 社会における地域課題の解決についてのボランティアの存在			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日発表		
	授業内評価	30点	提出物		
		20点	授業態度		
備考		参考資料:久米隼『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』日本橋出版 ※12月16日(火)休講⇒2月10日(火)補講			

2025年度 後期

(講義)		科目名:福祉教養演習Ⅵ (社会福祉士・専門科目)		講師：堀田 利恵	
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士国家試験に合格することを目標とする。専門科目を実施する。				
教科書		模擬問題の形式で、実際と同じ試験時間内に問題を解いて解答を合わせ、間違った問題は徹底して克服します。			
		社会福祉士国家試験「過去問解説集2025」「模擬問題集2026」各中央法規出版			
回数		授業内容			
第1回		過去問セレクト、内部模試問題ほか			
第2回		過去問セレクト、内部模試問題ほか			
第3回		外部模試ふりかえり、正解あわせ			
第4回		模擬テスト弱点克服			
第5回		模擬テスト弱点克服			
第6回		模擬テスト弱点克服			
第7回		模擬テスト弱点克服			
第8回		模擬テスト弱点克服			
第9回		模擬テスト弱点克服			
第10回		実力養成			
第11回		実力養成			
第12回		実力養成			
第13回		実力養成			
第14回		総復習			
第15回		直前予想問題			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75％以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	前期末試験		
	授業内評価	30点	確認テスト・プレゼンテーション		
備考		国家試験までわずか4ヶ月です。11月からは「模擬問題2026」の弱点克服と、当てられた問題に対する解答プレゼンテーションをしてもらいます。自分の言葉で正解を説明できることを目標とします。			

(実技)		科目名:情報処理演基礎演習Ⅳ		講師: 高橋直子	
科目概要・目標	Wordの応用で、1年次に習得できなかった機能の修得とExcelの応用としていろいろな関数を修得する。 Wordを使用して、アプリケーション間のデータの利用などを学習する。 また、課題の内容からアレンジする問題を学習する。				
教科書	配布資料を基に学習を進める。				
期末試験	実技課題を1つ作成する。				
回数	授業内容				
第1回	Word 表の中に表のある文書の作成				
第2回	Word 段組み				
第3回	Word 図解の練習				
第4回	Word 図解の応用				
第5回	Word 複雑な表				
第6回	Excel 基本の復習				
第7回	Excel 作表				
第8回	Excel 日付・時刻に関する関数				
第9回	Excel 文字列に関する関数				
第10回	Excel 条件付き関数				
第11回	Excel 複数条件の復習と表参照				
第12回	WordにExcelの表やグラフを取り込む				
第13回	Word アレンジ課題				
第14回	復習				
第15回	試験対策				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考	飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止 事前に配布された資料等は目を通して授業に臨むこと				

2025年度 後期

科目名：		卒業研究		講師： 仁井田和也／ 内山世璃奈	
科目概要・目標	各自の専門分野について、テーマを決め、先行研究を調べ、先行研究についてまとめることによって、専門分野についての理解を深め、アカデミックな研究方法について学ぶ。				
教科書	必要に応じてその都度、資料を配布する。				
期末試験	試験内容について後日発表する。				
回数	授業内容				
第1回	授業の進行について 研究テーマについて				
第2回	研究テーマの検討				
第3回	先行研究調査1				
第4回	先行研究調査2				
第5回	研究テーマの決定				
第6回	研究テーマの決定2				
第7回	先行研究調査3				
第8回	先行研究調査4				
第9回	まとめ1				
第10回	まとめ2				
第11回	まとめ3				
第12回	まとめ4				
第13回	学園祭の出席読み替えのため休講				
第14回	学園祭の出席読み替えのため休講				
第15回	期末試験対策				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75％以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	論述式。指定用紙のみ持ち込み可。		
	授業内評価	30点	授業態度、授業内課題など。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度も注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

2025年度 後期

(講義)		科目名:福祉教養演習Ⅴ（共通科目）		講師：堀田 利恵		
科目概要・目標	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。					
教科書	「過去問解説集2025」中央法規、「模擬問題集2026」中央法規 「受験ワークブック2025」【共通】中央法規					
回数	授業内容					
第1回	過去問セレクト、内部模試問題ほか					
第2回	過去問セレクト、内部模試問題ほか					
第3回	外部模試ふりかえり、正解あわせ					
第4回	模擬テスト弱点克服					
第5回	模擬テスト弱点克服					
第6回	模擬テスト弱点克服					
第7回	模擬テスト弱点克服					
第8回	模擬テスト弱点克服					
第9回	模擬テスト弱点克服					
第10回	実力養成					
第11回	実力養成					
第12回	実力養成					
第13回	直前予想問題					
第14回	直前予想問題					
第15回	期末試験					
第16回	国家試験採点予備日					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	40点	後期末試験			
	授業内評価	30点	積極的な授業への関与や発言を評価する。			
備考	国家試験日まで、あと4か月となりました。弱点克服のあとは、個別指導と自主学習が中心となります。					

(講義)		科目名:福祉心理学		講師: 原田 亘	
科目概要・目標		福祉では、支援を必要とする人々を対象として支援を行う。かつては児童が中心であったが、青年期、中年期、高齢期と生涯発達の視野の中で、その援助が考えられるようになった。福祉現場で生じる問題及びその背景、福祉現場での心理社会的課題及び必要な支援方法、特に虐待、認知症に関する必要な支援方法について学ぶ。 (実務経験を有する講師の授業に関する補足) 当科目は、社会福祉施設の管理者等を経て、社会福祉士・公認心理師として、カウンセリングとソーシャルワークの両面からの支援を続ける講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		中島健一『福祉心理学』遠見書房。			
提出課題	レポート設題1	被虐待児とその養護者に対する、心理職の役割について述べよ。			
	学修のポイント1	児童福祉施策の概要について			
	学修のポイント2	児童相談所における心理支援について			
	学修のポイント3	社会的養護における心理支援について			
	学修のポイント4	児童虐待に関する心理支援の実践について			
	学修のポイント5	障害児・者への心理支援について			
	学修のポイント6	高齢者への心理支援について			
期末試験		演習から学んだこと。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション／福祉心理学とは何か①			
第2回		福祉心理学とは何か②			
第3回		児童福祉施策の概要について			
第4回		子どもと親への心理支援について①			
第5回		【演習1】親子への心理支援の技術(ペアレントトレーニングの体験)			
第6回		子どもと親への心理支援について②／社会的養護における心理支援について			
第7回		児童虐待に関する心理支援の実践について①			
第8回		児童虐待に関する心理支援の実践について②			
第9回		児童虐待に関する心理支援の実践について③／レポート作成			
第10回		トラウマインフォームドケアについて			
第11回		障害児・者への心理支援について			
第12回		高齢者への心理支援について			
第13回		その他(ひきこもり等)への心理支援について			
第14回		【演習2】若者分野の心理支援の技術(具体的対応とロールプレイ)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	持込可		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント2本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること。		
		30点	授業態度。授業は積極的に参加すること。		
備考		授業で学んだことを、現場に出た時にどのように活用することができるのかを考えながら受講していただくことを望みます。			

(講義)		科目名:就労支援		講師: 戎 弘志	
科目概要・目標	近年、「就労支援」が社会福祉において大きなウェイトを占めるようになってきている。本科目では、福祉専門職として必要とされる就労支援について、最低限の知識の習得を目的とする。 学修のねらいとして以下のものを挙げる。 ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ・労働を取り巻く状況について理解する。 ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ・就労支援分野との連携について理解する。				
教科書		配布資料に沿って授業 (旧・新社会福祉士養成講座(18)就労支援サービス 中央法規出版)			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		～オリエンテーション～ 自己紹介、授業の進め方			
第2回		第2章 第2節 障害者福祉施策における就労支援			
第3回		第2章 第2節 福祉分野のサービス体系と組織			
第4回		第2章 第2節 福祉施策と雇用施策の連携			
第5回		第2章 第3節 雇用分野のサービス体系と組織			
第6回		第2章 第3節 雇用分野の支援の内容			
第7回		第4章 第1節 サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員			
第8回		第4章 第1節 生活支援員、障害者就業・生活支援センター			
第9回		国試対策			
第10回		第4章 第1節 サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員			
第11回		国試対策			
第12回		第4章 第1節 生活支援員、障害者就業・生活支援センター I			
第13回		第4章 第1節 生活支援員、障害者就業・生活支援センター II			
第14回		第4章 第1節 生活支援員、障害者就業・生活支援センター III			
第15回		国試対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	後日発表		
	授業内評価	10点	提出物(学修のポイント2本、下書きレポート・清書レポート)の期限を守ること。		
		20点	授業は積極的に参加すること		
備考					

(講義)		科目名:ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		講師: 戎弘志	
科目概要・目標		この科目では、学生自身の現場実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。			
教科書		社団法人 日本社会福祉士養成校協会(監修) 「社会福祉士 相談援助実習」 中央法規出版			
提出課題	レポート設題1	実習ノートを完成させ、「ソーシャルワーク実習全体を通して学んだこと(実習のまとめ)」を使用して実習を振り返る。			
	学修のポイント	1. 自分の実習の体験を振り返って、「実習報告書」を作成せよ。 ＜ポイント＞ 「実習施設の概要」、「私の学び(事例)」、「実習のまとめ」を整理する。 ＜注意事項＞ ・本科目の科目終了試験はスクーリング受講中に作成・提出される「実習報告書」を評価する。 ・草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて作成すること。 ・指定書式(計1枚)を使用すること。 ・作成にあたっては、「福祉・保育実習の手引き」を参照すること。 ＊ 来場論述試験(科目終了試験)は実施されません。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		実習終了後からの流れを理解する			
第2回		実習施設概要、自分の学びを発表する			
第3回		実習施設概要、自分の学びを発表する			
第4回		実習施設概要、自分の学びを発表する			
第5回		実習報告書の作成			
第6回		実習報告書の作成			
第7回		実習報告書の作成と製本			
第8回		事例を理解する			
第9回		事例を理解する			
第10回		事例を理解する			
第11回		事例を理解する			
第12回		事例を理解する			
第13回		実習の全体総括			
第14回		実習の全体総括			
第15回		実習の全体総括			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	実習報告書(大学指定様式) ※報告書の評価は大学科目終了試験の評価となります。		
		15点	実習のまとめ ※まとめの評価は大学レポートの評価となります。		
5点		授業取り組み(例:学習意欲、提出期限、授業中の姿勢等、総合的に評価する。)			
備考		参考文献 新・社会福祉士養成講座 相談援助演習 中央法規出版			

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅴ		講師: 戎弘志	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1年次から4年次まで断続的に学習するように構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目指すとしている。				
	ソーシャルワーク演習Ⅴでは、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験、つまりソーシャルワーク実習での体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。				
	ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待される。				
	1) 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。				
		2) 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。			
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	ソーシャルワーク実習を通じて、獲得したソーシャルワークの倫理と価値、技術、知識について述べよ。			
	学修のポイント1	スーパービジョンについて			
	学修のポイント2	ケースカンファレンスについて			
	学修のポイント3	事例研究に関する理解			
	学修のポイント4	事例検討に関する理解			
	学修のポイント5	実践から獲得したソーシャルワークの倫理と価値、技術、知識について			
	学修のポイント6	ソーシャルワーク実践活動に向けた自己課題			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅴのねらいと解説)			
第2回		スーパービジョンの方法(個人のスーパービジョンについて)			
第3回		ケースカンファレンスの方法(ケース報告の振り返り)			
第4回		事例研究(1)			
第5回		事例研究(2)			
第6回		事例研究(3)			
第7回		事例研究(1)(2)(3)での専門知識及び技術を考察する			
第8回		事例研究(4)			
第9回		事例研究(5)			
第10回		事例研究(6)			
第11回		自らの実習経験と学んだ専門知識及び技術を考察する			
第12回		事例研究(9)			
第13回		事例研究(10)			
第14回		まとめ(報告事例について専門知識及び技術を振り返る)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業への積極的参加とポイント課題の内容と提出状況		
備考					

2025年度後期

(講義)		科目名：高齢者支援展開論		講師： 飯塚 哲男	
科目概要・目標	高齢者の生活を全人的に支えるための実践理論と支援方法を体系的に学ぶ科目です。上巻で示される介護保険制度やケアマネジメントの理念を基盤に、高齢者一人ひとりの尊厳を尊重した支援を展開する力を養うことを目的とします。具体的には、介護保険制度の仕組み、チームアプローチ、多職種連携、アセスメントからモニタリングまでのケアマネジメントプロセスを理解し、地域包括ケアシステムの中で自立支援と生活支援を実現する実践力を高めます。また、下巻で扱う高齢者の心身の変化、疾患、心理・社会的課題に関する基礎知識を統合し、倫理的判断やエビデンスに基づく支援の展開を目指します。高齢者支援展開論は、介護支援専門員として「制度を理解し、生活に活かす」専門職の思考と行動を育むことを目標としています。				
教科書	介護支援専門員基本テキスト上巻・下巻				
期末試験	高齢者の尊厳を支えるケアマネジメントの展開 800字程度				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション ・ 介護保険制度（1）について				
第2回	介護保険制度（2）について				
第3回	ケアマネジメント（1）（理念、意義、介護支援専門員の役割・機能等）				
第4回	ケアマネジメント（2）（居宅介護・介護予防・施設における介護支援等）				
第5回	介護保険サービス(1)（居宅サービス・介護予防サービス等）				
第6回	介護保険サービス(2)（地域密着型サービス・介護保険施設サービス等）				
第7回	高齢者保健医療の基礎知識(1)（心身機能・疾病・介護技術等の特徴）				
第8回	高齢者保健医療の基礎知識(2)（感染症・認知症・リハビリテーション等）				
第9回	高齢者福祉の基礎知識（1）（ソーシャルワークとケアマネジメント）				
第10回	高齢者福祉の基礎知識（2）（社会資源の活用および関連諸制度）				
第11回	期末試験（十訂介護支援専門員基本テキスト上・下巻 持ち込み可）				
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	高齢者の尊厳を支えるケアマネジメントの展開 1000文字程度		
	授業内評価	30点	授業中の態度は評価に含まれる。教員の指示に従わない行為、他科目の課題作成、居眠り、私語、スマートフォン等の使用が確認された場合は、学習意欲や授業参加姿勢に欠けるものとして減点対象とする。		
備考	高齢者の尊厳を支えるケアマネジメントとは、単に介護サービスを調整するだけでなく、その人が「自分らしく生きる」ことを中心に据えた支援過程である。尊厳とは、年齢や能力にかかわらず、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重されることを意味する。ケアマネジャーは、その理念を具体的に実践へとつなげる司令塔の役割を担う。				